

〔翻訳〕

コンピテンス志向の歴史授業

ペーター・ガウチ教授初来日記念講演会

Geschichte kompetenzorientiert unterrichten
Ein Einblick in den Schweizer Unterrichtsalltag 2017

ペーター・ガウチ

原田 信之 ・ 宇都宮 明子 (訳)

Peter Gautschi

Nobuyuki HARADA Akiko UTSUNOMIYA

Studies in Humanities and Cultures

No. 29

名古屋市立大学大学院人間文化研究科『人間文化研究』抜刷 29号

2018年1月

GRADUATE SCHOOL OF HUMANITIES AND SOCIAL SCIENCES

NAGOYA CITY UNIVERSITY

NAGOYA JAPAN

JANUARY 2018

〔翻訳〕

コンピテンス志向の歴史授業

ペーター・ガウチ教授初来日記念講演会

Geschichte kompetenzorientiert unterrichten

Ein Einblick in den Schweizer Unterrichtsalltag 2017

ペーター・ガウチ (Peter Gautschi)

原田 信之・宇都宮 明子 (訳)

Nobuyuki Harada Akiko Utsunomiya

0. はじめに
1. 序
2. 私たちは日常生活でどのように歴史と出会うのだろうか
3. 歴史学習とは何か
4. スイスの学習指導要領において歴史学習に必要なコンピテンスは何か
 - 4.1 4つの行為の側面
 - 4.2 4つのコンピテンス領域
 - 4.3 12のコンピテンス
5. コンピテンス志向の授業はどのようなものなのか
 - 5.1 コンピテンス志向の歴史授業の特徴
 - 5.2 コンピテンス志向の歴史授業の事例
 - 5.3 コンピテンス志向の歴史授業の事例分析
6. スイスでのコンピテンス志向の歴史教科書はどのようなものなのか
7. コンピテンス志向の歴史授業で何が得られるのか

要旨 本稿は、スイス・ルツェルン教育大学のペーター・ガウチ教授 (Prof. Dr. Peter Gautschi) が主宰する国際比較教育研究プロジェクト「自国の歴史をどう伝えるかー中等段階の歴史授業における国際的な展望性の比較分析」の一環として行われた初来日記念講演会の内容を抄訳したものである。スイス・ドイツ語圏ではレアプラン 21 (Lehrplan 21) 以後、コンピテンス志向の授業が主流になった。スイス・ドイツ語圏のみならずドイツ、オーストリアにおいても進められてきたコンテンツ・ベースからコンピテンス・ベースへの転換を図るカリキュラム改革に対し、歴史学習を対象にコンピテンス志向の授業や教科書の特質と課題を明らかにしている。

キーワード : 歴史教授学、教授学、レアプラン 21、コンピテンシー、スイス・ドイツ語圏

0. はじめに

本稿は、2017年10月4日に名古屋市立大学において、10月5日に佐賀大学において開催されたスイス・ルツェルン教育大学のペーター・ガウチ教授 (Prof. Dr. Peter Gautschi) による初来日記念講演会の内容を抄訳したものである¹⁾。本講演会は、ガウチ教授が主宰する国際比較教育研究プロジェクト「自国の歴史をどう伝えるかー中等段階の歴史授業における国際的な展望性の比較分析」の一環として行われた。同国際比較教育研究プロジェクトは、スイスを主催国としてベルギー、ブラジル、カナダ、カメルーン、韓国との国際共同研究として進められてきたが、2016年より日本から原田信之 (名古屋市立大学) と宇都宮明子 (佐賀大学) が参加している。

ガウチ教授の略歴を紹介しておきたい。ガウチ教授は、1959年スイス生まれで、公立学校教員を務める傍ら、アールガウ教育大学で講師を務めた後、2009年カッセル大学で学位取得。現在、ルツェルン教育大学教授で、歴史教育・記憶文化研究所の所長を務めている。著書には、『すぐれた歴史授業』、『歴史を教える』、『記憶文化に対する学校と高等教育機関の貢献』(共編著)等があり、『歴史を教える』では「ワールド・ディダクティック・アワード」を受賞。ドイツ・クレット社の歴史教科書『時間旅行』の編集責任者を務め、この教科書も賞を受賞している。日本においてもガウチ教授らが編纂した歴史教科書の邦訳版『スイスの歴史ースイス高校現代史教科書〈中立国とナチズム〉』が明石書店より出版されている。

ガウチ教授はスイス国内に限らず、オーストリアやドイツを含めたドイツ語圏において、最も注目を浴びている歴史教授学研究者の一人であり、コンピテンス (コンピテンシー) を軸にした資質・能力を育成するというドイツ語圏における最新の教授学研究に対し、歴史教科書においてその新たな展開を体系的・構造的に実現しようとしている研究者である。歴史教育という教科教授学研究においてのみならず、一般教授学研究においてもこの研究の動向の授業実践レベルでの展開を理解するのに本講演の内容は多くの示唆を与えてくれる。 (NH)

1. 序

スイスの歴史授業は大きく変わろうとしている。19・20世紀に社会や個人のアイデンティティの構築や知識の伝達が注目を集めた後、現在はコンピテンスに関心が移ってきている。

生徒は歴史の無限の多様性に主体的に取り組むために、教科特有の方法で、幅広く課題に対して働きかけるよう促される。生徒は現在の中心的な問いを取り上げる問題設定に直面させられる。歴史授業の目標は、学習者が有意義に積極的に累積的に学習することである。歴史や記憶、さらには歴史的に学習するという目標に各自が取り組むことができるようにするには、豊富な資料を必要とする。

この講演は、現在のスイスでコンピテンス志向の歴史授業がどのように行われているのかを示し、このコンピテンス志向の歴史授業がどうあるべきかを問いかけるものである。

本講演は、以下の6つの問いに従って進めることとする。

- ① 私たちは日常生活でどのように歴史と出会うのだろうか？

第 2 章では、具体的な事例をもとに、歴史学習がどのように行われているかを説明する。

② 歴史学習とは何か？

第 3 章では理論的な段階モデルを使って、歴史学習とは何であるのかを解説する。理論的な考察を図で具体的に説明する。

③ スイスの学習指導要領において歴史学習に必要なコンピテンスは何か？

第 4 章では、スイスの学習指導要領は、コンピテンス志向の歴史学習をどのように構造化しているのかを取り上げる。

④ コンピテンス志向の授業はどのようなものなのか？

第 5 章では、日常的な授業を記録した一場面に基づいて、授業実践ではコンピテンス志向はどのようなものかを論究する。

⑤ スイスでのコンピテンス志向の歴史教科書はどのようなものなのか？

第 6 章では、学習指導要領の考え方を反映させたスイスの歴史教科書『時間旅行 (Zeitreise)』を示す。

⑥ コンピテンス志向の歴史授業で何が得られるのか？

第 7 章では、歴史授業をコンピテンス志向にすると何を手に入れることができるのかについて、最後にまとめをする。コンピテンス志向は、若者が確かな歴史の基本的イメージを手に入れ、個人や社会のアイデンティティを構築するのに貢献する。

コンピテンス志向は、知識志向やアイデンティティ志向と矛盾するものではない。未来を視野に入れ、発展を確実にするためのツールである。これは、学習者や社会にとって重要な意味を持つものである。

2. 私たちは日常生活でどのように歴史と出会うのだろうか

スイスは、日本のように、多くのコントラストや興味深い文化遺産、多様性を有する地域からなるすてきな国であり、ドイツ語、フランス語、イタリア語、レトロロマンス語という 4 つの公用語を持つ国でもある。

確かにスイスは小さな国であり、人口は日本の約 15 分の 1 以下で、面積は約 10 分の 1 しかない。各地域は高い山々によって隔てられている。ドイツ語が話される地域からイタリア語の地域に旅をするとしたら、4000m 以上の高さを持つアルプス山脈を横切らなくてはならない。スイスは鉄道の国でもあり、19 世紀にはすでに長いトンネルが建設されていた。例えば、観光で有名なゴットハルト・トンネルは、全長 57 km のとても長いトンネルである。列車で新旧のトンネルをつなぐこの路線を通り抜けたくて、そこにハイキングに出かける家族がスイスでは多い。

ここで、ダニエラという 17 歳の女子生徒を登場させる。ダニエラは今年の夏、家族とこのトンネルを通して、ドイツ語の地域からイタリア語の地域に向かった。一家は少し散策した後、バスでアイコロに向かった。

アイロロで下車すると、ダニエラは男性が描かれたレリーフのついた記念碑を見つけた。そのレリーフは誰かを運んでいるように見えた。歴史は至る所に存在するので、学校では周りを観察することがいかに重要であるかを学ばせている²⁾。そのおかげでここアイロロでも、ダニエラはレリーフがついた記念碑に気づくことができた。彼女は記念碑に描かれている 1 シーンに興味を持ち、引き込まれたのである。



図 1 アイロロのゴットハルト記念碑のレリーフ (写真 : Roger Wehrli, Baden)

この記念碑から彼女にはいくつもの問いが浮かんできた。どうしてここに記念碑があるのか？これは本当に歴史と何か関係があるのか？彼女は、過去の足跡をたどる探偵のようだった。

彼女は、見知らぬ言語、おそらくイタリア語で書かれたとみられる碑文が目にとまり、推測した。「ゴットハルト・トンネル 1872-1882 年」。労働者たちが、大けがをしたか亡くなった同僚を運び去っている。ダニエラは、当時何があったのかと疑問に思った。事故が起きたのだろうか？彼女は、どうすれば答えが得られるかをじっくり考えた。彼女にはもっと情報が必要である。

残念なことに、彼女の両親もそれ以上のことはわからない。一家は運を天に任せて、次の乗客をバスで待つ運転手に尋ねた。この運転手は実に多くのことを知っていて、アイロロとゲシェネンの間をつなぐ旧鉄道トンネルの建設について語ってくれた。

このトンネル工事のために 177 名の男性が亡くなり、ダニエラが運転手の言うことを正しく理解しているとしたら、事故にあったのはイタリア人であり、そのほぼすべてが亡くなったということであった。

この記念碑はアイロロのバス停のこの場所で彼らを追悼している。ここスイスでは当初、このトンネル建設にどれほど多くの外国人の犠牲者が出たかを記憶に留めなくなかったため、記念碑はトンネル建設からずっと年月が経ってから、ようやく建てられたことも運転手は知っていた。

ダニエラの家族が引き返すための列車は、もう到着している。一家は急いで列車に乗り込み、再びトンネルを通過した。ダニエラはこんなトンネルが 150 年以上も前にすでに建設されていたことがとても信じられない様子だった。どうやって成し遂げたのだろうか？彼女はこのトンネルがスイスの経済や政治にとってどのくらい重要なのかを両親から聞き、過酷に働き、苦しんだ人々のおかげで作られたことを悟ったのである。

ループトンネルのために有名な教会の前を何度も通り過ぎる間、「このトンネルのために約 200 名の人が亡くなることは避けられなかったのだろうか？」という疑問がわいてきた。「誰に責任があるのか？誰が建設で得をしたのか？新しいトンネルの方でも犠牲者は出たのか？新しいトンネルで今得をしているのは誰なのか？」ダニエラは、家に帰って、これらの問いについて、何か書かれていないか、インターネットと教科書で調べてみることにした。

3. 歴史学習とは何か

ダニエラはゴットハルトで歴史を学んだ。彼女は記念碑に気づき、親やバス運転手との会話の中で描き出されたエピソードを解き明かし、ゴットハルト・トンネル建設の歴史を知ることができたのである。最後には、このトンネル建設の意義と有益さについて、問うまでに至った。



図2 歴史学習のイメージ図 (Stephan Brühlhart, Baden)

理論的にみれば、彼女は5つの活動段階でこの歴史を学習した。

第1は、問いと推測である。

図の中央に座っているダニエラは記念碑に関心を示し、ゴットハルト・トンネルの建設という歴史が持つ無限の可能性に対し、記念碑という資料や、記念碑を巡る話の描写から当時の状況を認知する時に、図2で示した「歴史学習」が始まった。歴史学習では、選ばれた資料や対象、時には過去に迫るのに役立つ人も必要になる。ダニエラの場合には、記念碑や運転手の話が過去に迫るのに一役買った。これにより彼女は問いと推測を表現し始めることができたのである。

第2は、事実分析である。

ダニエラは、記念碑をめぐる歴史証言から再構築される事実を確認し、当時の状況を解明した。学習者は「歴史的な事実分析」³⁾の力を身につけ、対象をよりよく理解することができたのである。

第3は、事実判断と価値判断である。

この段階で、学習者は選択された資料や見出された対象を大きな枠組みで関連づける。学習者は原因と結果、それ以前とそれ以後を探求し、他の歴史状況とも関連づけるのである。ダニエラの場合、バスの運転手の語りのおかげでトンネルの建設をスイスの歴史に組み入れることができ、それによって「歴史的な事実を判断すること」に成功したのである。

さらに学習者は、一方では歴史の事実とその歴史的な意義とのつながり、他方では個人と社会とのつながりを見つけだしている。学習者は問題意識に照らして整理・判断し、現在や未来、個人や社会の状況を考慮して「歴史的な価値判断」を行うのである。ダニエラはその事実と価値の判断のおかげで、歴史の無限の可能性や歴史の世界に引き寄せられていったのである。

第4は、考え方、決断、行為についてである。

ダニエラはこうした学びによって歴史意識を多様にふくらませ、アイデンティティを構築し、政治や経済の現象に関する考え方を発展させたのである。これら考えたことについて、クラスでスピーチをして、ゴットハルト・トンネルは、いつ、どのように建設され、それによって誰が利益を得て、誰が損失を被ったか、つまり、トンネル建設のために亡くなった労働者が200名もいることを発表することもできる。

歴史学習は、様々に展開可能であり、記念碑や資料や人との語りがすべてではない。価値や事実の判断を行い、その後で再度、事実は実際のところどうであったのかを分析する時にも、歴史学習は始まる。ゴットハルト・トンネルの建設のケースでは、実際にトンネルで起きたことを、何から知ることができるのだろうか？歴史学習は、別の方向性、もっと言えば、個々の過程の段階には、別の順序もあり得るような過程である。だから、図2のスパイラルにおける矢印は2つの方向性で示されているのである。

第5は、語りとしての歴史学習である。

歴史学習は、常に「語り」の中で生じるものである。事実分析、とりわけ、事実と価値の判断には、語りの形式が伴う。もちろん、まったく別の語りの形式も考えられる。マインドマップの作成や演劇での演出も語りの形式である。歴史学習においては、語ることで初めて「時間について

ての意味が一定の方法で形成されるのである」⁴⁾。従って、学習者は、歴史や記憶によって過去をありありと思ひ浮かべるために、語りコンピテンス（narrative Kompetenz）を必要とする。こうした理由から、どんな歴史授業でも、生徒が語りへと導かれることが重要なのである。

4. スイスの学習指導要領において歴史学習に必要なコンピテンスは何か

4.1 4つの行為の側面

生徒が歴史を理解し、語りを可能にするコンピテンスを「語りコンピテンス」と呼ぶ。これは歴史授業の核心とみなされるものである。前述した歴史学習のモデルに即すと、語りコンピテンスは図2においてスパイラルで記載される4つの行為の側面を含んでいる。

一つめは、過去や歴史や記憶を認知し、資料や描写を見出し、問いを設定し、推測したことを述べることである。

二つめは、過去や歴史や記憶を解明し、事実分析を発展させることである。

三つめは、過去や歴史や記憶について、事実判断や価値を構築することである。

四つめは、現在において未来のために行為するため、考え方を多様にし、判断したり行為したりすることである。

これら4つの行為の側面は、ダニエラの事例で以下のように説明することができる。

○世界を認知する

生徒は、何が彼らを取り巻き、それらの事象が彼らにどのような影響を及ぼすのかを認知する。生徒は、自身の認知や考え方や経験を表現することで生活環境や社会への好奇心・関心を発展させる。

ダニエラのケースでは、アイロロの記念碑を認知し、これが歴史と何らかの関わりを持つことに気づいたところである。彼女がそれほど興味を示さず、好奇心がわいてこなかったとしたら、レリーフを見つけることも、歴史的に学ぶこともできなかったであろう。

○世界を解明する

生徒は、社会・文化・自然において置かれているシチュエーションや現象を解明する。彼らは異なる展望から問いを設定し、調査し、世界を探求する。それによって、その知識や認識を徐々に拡張していく。

ダニエラのケースでは、親やバス運転手に助けってもらって、記念碑に表現されている、一瞥しただけではわからないところまで理解することができた。

○世界に方向づける

生徒は、現象や事象、状況、印象や洞察を関連づけて整理する。彼らは現在や過去の状況を分析・判断し、それらを熟考する。その際、その認識を構造化し、深化し、事実に関連づけて構想を発展させる。彼らは現在や未来の挑戦によって世界は導かれていくものであり、生徒たちはその世界をどのように導いていけばよいのかの方向性を獲得する。

ダニエラのケースでは、トンネル建設の原因と結果に取り組み、そして、トンネル建設の歴史を知るに至り、その結果、トンネル建設のために亡くなった多くの犠牲者に同情も感じるようになる。

○世界において行為する

生徒は決断を下し、じっくり考えて行為する。彼らは認識を創造的・構成的に転換し、取り巻く環境の形成に相互作用し、自らや共同体や社会のために共同責任を負う。そこでは、有能で未来を志向する行為を視野に入れた自主性や対話能力や協力も促進される。

歴史において勝者の側と敗者の側に立つ人々に対するダニエラの関心は増大し、彼女はこれに関して学校のクラスでスピーチを進んで行う。

4.2 4つのコンピテンス領域

歴史学習では、選択された思考様式や活動様式は、ダニエラの事例が示すように、テーマや内容がもたらす観点と結びつけられる。ダニエラは、これらの4つの側面を1872年から1882年のゴットハルト・トンネルの建設と結びつけている。

スイス・ドイツ語圏の新しい学習指導要領においても、同様の扱いがなされている。テーマや内容と結びつけられたものが、コンピテンス領域である。レアプラン21(訳者注:2010年から2014年にかけて、ドイツ語圏の地域の教育長会議がプロジェクトとして開発したスイスの学習指導要領)のコンピテンス領域は、以下にあるドイツ語圏の地域における歴史学習の区分を反映する。

- ・スイスの歴史
- ・世界史
- ・歴史文化
- ・政治教育

4.3 12のコンピテンス

教科特有の思考様式や活動様式とテーマや内容が結びついて、4つのコンピテンス領域において、全部で12のコンピテンスが設定されている。ドイツ語圏のすべての生徒は、学習指導要領に従うと、小学校修了時には以下のことができるようになっている。

- ① スイスの成立と発展が説明できる。
- ② 人々は経済的な変動を通して何を教訓として残したか、逆に人々が経済変動をどのように引き起こしたかを示すことができる。
- ③ スイス人の日常生活を複数の世紀で比較することができる。
- ④ 選択された縦断面において、近代初期から現在までの歴史を語ることができる。
- ⑤ 19世紀における連続性と変革の特徴を言い表すことができる。
- ⑥ 20・21世紀の歴史のいくつかの現象を分析し、その今日における重要性を説明することができる。

- ⑦ 学校以外の歴史的な教育の場所を見つけ、学習に役立てることができる。
- ⑧ 教育や語らいに歴史を活用することができる。
- ⑨ 時代証言者との対話から、過去について知見を引き出すことができる。
- ⑩ スイスの民主主義を説明し、他の社会システムと比較することができる。
- ⑪ 人権の発展と意義と危うさを説明することができる。
- ⑫ ヨーロッパや世界におけるスイスの位置を認識し、判断することができる。

これらのコンピテンスは短期間に一つの授業で獲得できるものではない。これらは、累積的で、構成的な学習の意味で長期にわたる持続的な働きかけを必要とするものである。これらは長期に及ぶ計画と、授業において目標に到達できたかの観察を前提とする。変動する事実関連の中で複数の類似する学習機会が生徒に与えられて初めて、生徒は自在に活用できるコンピテンスを構築し、歴史において自ら語り、彼らに提供される語りを習得し、それを批判的に扱うことができる状況になる。

5. コンピテンス志向の授業はどのようなものなのか

コンピテンスを志向する歴史授業がどのようなものなのかは、スイスの教師の多くが、この方法でずっと前から教えているので理解されている。コンピテンス志向の歴史授業の特徴は以下のように説明することができる⁵⁾。

5.1 コンピテンス志向の歴史授業の特徴

- ①コンピテンス志向の歴史授業は、生徒の知性のアクティブ化⁶⁾を図るものである。生徒は、授業において、コンピテンスを多様化するための学習機会を得ている。授業において生徒の積極的な姿がみられる。
- ②コンピテンス志向の授業の基盤は、学習課題である。学習課題は、資料で活動するための手引きの役割を果たすものである。生徒は自主的に過去や歴史を分析し、自ら困難を克服して、自信をつけていくのである。
- ③生徒が、課題を通して、現在の中心的な問いに直面することである。生徒が学んだことを今後、別の問題設定でも応用できるように、課題は、社会的に重要な内容を典型的な形で解明できるようにつくられなければならない。
- ④学習課題は、すべての生徒のコンピテンスが伸びるように作られなくてはならない、ということである。この要求は広範囲に及ぶ結果をもたらす。まず、教師は、学習者のコンピテンスの習得状況を知らなくてはいけない。その習得状況から個人の目標が建設的に表現されるからである。
- ⑤コンピテンス志向の授業では、個別対応が求められる。課題を克服するプロセスは生徒によ

って異なるからである。ある生徒はすぐにできて、別の生徒はより多くの支援を必要とし、また別の生徒は1人でやった方がよく学べる、というようなことである。他方、コンピテンス志向の授業は、とりわけ歴史の解釈や価値判断の多様な成果を受け入れる。開かれた課題であるのは、多様な解決方法や成果を導き出すためである。

- ⑥コンピテンス志向の歴史授業では資料が多いという特徴である。生徒が過去についての証言を資料や描写に応用することで、コンピテンスは伸びていくのである。
- ⑦コンピテンス志向の歴史授業は、生徒に歴史を語ることを求めるということである。

5.2 コンピテンス志向の歴史授業の事例

コンピテンス志向の歴史授業について、第二次世界大戦後の冷戦の開始に関する60分の授業を通して説明する。この授業は18歳を対象にしたものである。

生徒は、授業開始の段階でスターリンとトルーマンに関する風刺画(図3参照)と、広島と長崎の原爆投下に関するドキュメンタリー映画の一場面に取り組む。次の段階で、教師は黒板を使いながら、練り上げたクラスでの対話を基に、第二次世界大戦の結果をリフレクションしている。第3の段階で、生徒は教科書の2つの資料を使い、冷戦開始について異なる見解を扱う。これら2



図3 冷戦の開始に関する風刺画: Jean Leffel、発行年不明、世界一周相乗り自転車か、それとも不安定な一輪車か

つの資料を評価する対話を学級で行った後、第 4 の段階として、冷戦期について教師が簡単な講義を行い、生徒は白地図にドイツの分断を記録する。最後の第 5 の段階で、教師は冷戦期のドイツにおける発展として、民主主義化、脱ナチ化、非武装化、地方分権化を説明し、ここではナチ党員の逃亡の事実特に重点を置くことにしている。

5.3 コンピテンス志向の歴史授業の事例分析

この授業で生徒は、20・21 世紀の歴史の現象を分析し、今日における重要性を説明することが求められている。これは、先に示したコンピテンスの⑥に相当する。コンピテンス志向の授業には多様な展開が見られる。

生徒は、複数の資料をしっかりと捉えて読み解いている。風刺画はいったい何を描こうとしているのか、映画では何が示されているのか、資料の本質は何であるのか。主要なメッセージは何か。多様な方法で自分が納得のいく歴史を作り上げ、それを他の生徒が考えた歴史と比べるところが重要である。例えば、冷戦の開始について、見解が異なる風刺画や資料では、2 つの解釈が生じる。最終的に、冷戦の原因、ドイツでのナチ党員の逃亡の扱いについて、生徒は独自の意見を主張する機会を何度も得る。

コンピテンス志向の授業かどうかは、授業で生徒を観察することで最もよく示されるものである。生徒が活発に認識活動をしているかどうか。課題に主体的に取り組んでいるか。現在において意義のある問いに向かっているか。何か新しいことを学習しているか。学習プロセスを一部でも自分で形づくっているか。過去についての資料を使いこなせているか。歴史を語るまでに至っているか。コンピテンス志向の教科書はこれら全てを可能にしないといけない。

6. スイスでのコンピテンス志向の歴史教科書はどのようなものなのか

スイスには、コンピテンス志向の授業を目的とする教科書が多く作られている。以下では、“Zeitreise”（時間旅行）という名のついた教科書に基づいて述べる。この教科書を開発したのは私であるが、スイス、ドイツ、イタリアといったヨーロッパ諸国で広く使用されている。

第 1 の観点は、行為の側面である。

過去と歴史と記憶を認識し、それを解明したり、それらが意味するところを探ったりしながら、現在において未来のために行うこと、これら 4 つの行為が歴史学習の基本的なステップになる。これらの行為は、はっきりと区別することができず、入り混じっていたり、相互に結びついたりしていても、その学習過程の説明に重要なものである。コンピテンス志向の教科書はコンピテンスを解説し、めざす思考や活動形式や行動を適切に促すため、生徒自身が重要な操作の一覧とその説明を教科書の中に見いだすことができるものでなければならない。

第 2 の観点は、方法の一覧である。

一連の行為の順序やそこで何をすべきかは、学習者が分析するそのつどの資料や描写物による。文献史資料や絵画資料、歴史地図や風刺画、歴史を題材にした娯楽映画や記念碑を扱うための活動モデルは、時代の経過ごとにつくられている。時間旅行の教科書では、全部で14の方法が採用されている。

能力のある生徒は、これらの方法をマスターするのに、それを教科書のどこで見つけられるかが分かっている。教科書は場面ごとに具体的な方法を提示するだけでなく、方法の一覧も提示している。生徒の学習を支援するように作られている。例えば、文献史資料、写真、風刺画、娯楽映画といった過去や歴史や歴史文化へのアプローチを可能にする資料に生徒が直面するとすぐに、それらをどのように扱うべきかを方法一覧で調べることができるのである。

第3の観点は、学習課題である。

コンピテンス志向の教科書は、生徒を認知的に活発に活動させ、問いに直面させ、歴史的に語るように促さなくてはいけない。そのためには、多様な課題が必要である。歴史学習のためのコンピテンス志向の課題は4つのタイプに分類することができる。これら4タイプは、課題設定に不可欠であり、歴史の無限の可能性に導く史資料として区別したものである。

①史資料を扱う「代表的人物」

教師が学習者に資料（文献史資料、絵画、歴史地図等）を提示し、それについての適切な問いを立て、刺激を与える時に、例えば、回答や短いテキストでの成果を上げるよう生徒を促す。これは、一定の行為の側面をめざす選択された操作で最もうまくいく。まず、複数の資料を認識させ、そして解明させ、解釈させ（コンテキスト化し）、最後に判断させる。

②より多くの史資料を扱う一連の課題

一連の課題では、生徒は相互に論理的に関連する多くの史資料に直面する。史資料は異なるジャンルの史資料や異なる種類の描写から取り出される。これらは描写された時期や、その現象を描写する視野により異なっている。

③ポートフォリオのための課題

生徒は主体的に多くの史資料を探す。ポートフォリオのための課題は、方向性を獲得し、最終的に活動を通して成果を発展させるために、過去や歴史や歴史文化を自ら認知し、主体的に歴史的な史資料を見だし、それらを解明し、歴史的なコンテキストに埋め込むよう生徒を導いていく。これらの課題はプロジェクト的な学習への刺激を提供する。関心を持つよう差し向けられた生徒は、自己統制的な歴史学習が可能となる。これは歴史学習のためのコンピテンスの広範囲な発達を促進する。

④史資料を基盤に置かない問いや刺激

史資料を基盤に置かない問いや刺激は、既に獲得されているか、史資料とは別のところで到達できる知識に照準を当てる。ここでは、閉じられた形式（例えば、多肢選択問題）も、開かれた形式（記録、作文）もありえる。問いに対して回答するか、引用や主張に対して対応するかのどちらかをするべきとされる記述は、特にコンピテンス志向の判断に適している。

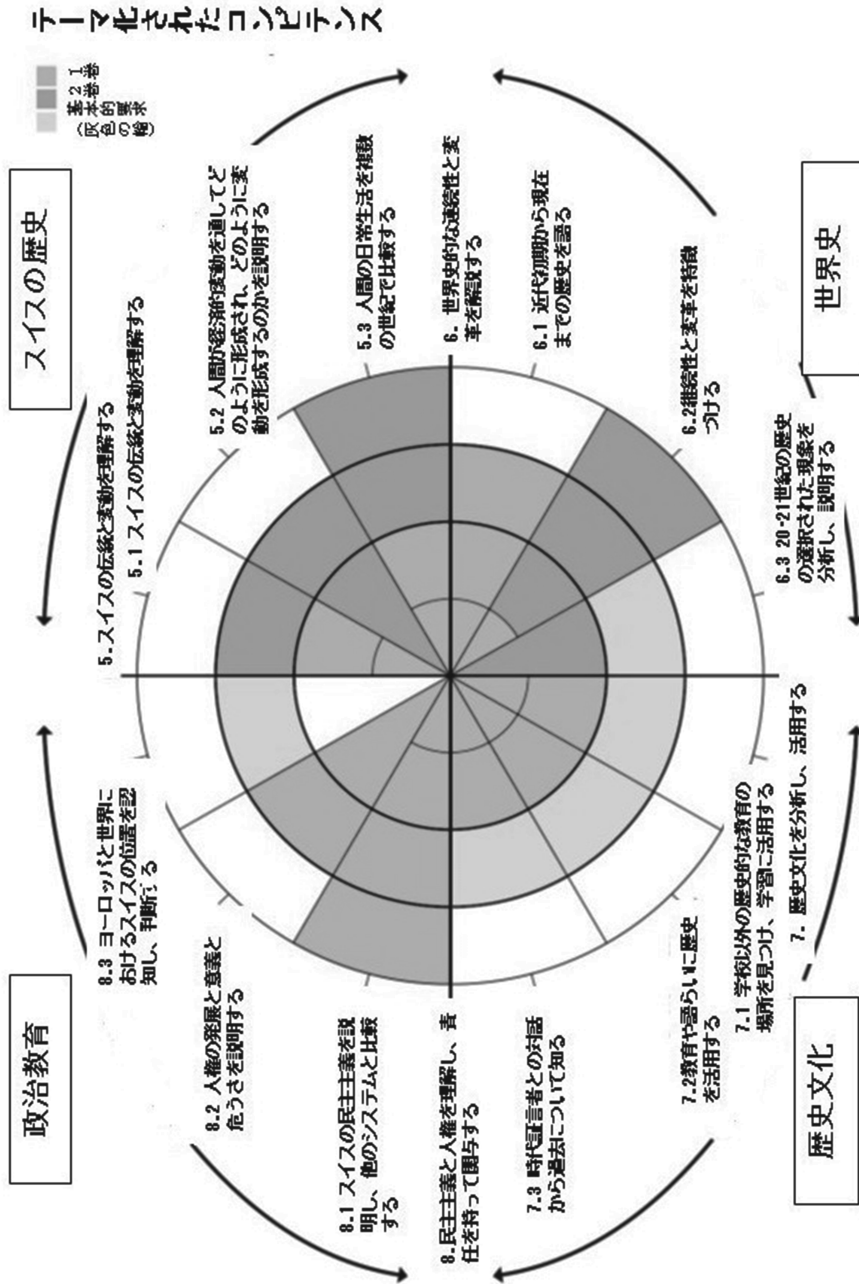


図4 コンピテンズのマトリックス

コンピテンス志向の教科書は、課題や理想的にはこれら4つ全ての基本的タイプに対して豊富な選択を提供する。

コンピテンスは複数の側面を包摂する。能力のある者(熟達者)は、(1)特有の宣言的知識、(2)手続き的知識、そして(3)メタ認知的知識⁷⁾、(4)事象に関連した関心や考え方、それを越えて、(5)コミュニケーションを取る能力を自在にしている。これら全ての側面はコンピテンスに属し、コンピテンスについて語る時には常に一体的に考慮される。複雑な現象を扱う場合には、コンピテンスの見通しがすぐにつかなくなることは不思議ではない。

コンピテンス志向の教科書は、学習指導要領の全てのコンピテンス領域とコンピテンスがどのように累積的に年月を越えて扱われるのかを明示する必要がある。そうすることで、納得のいく積み上げ型の学習が可能になるのである。こうしたコンピテンスの見通しは、教師に分かりやすい計画の基盤を提供してくれる。どの章でも、どの段階でどのようなコンピテンスが、どこで促進されるのかが示されている。これは、教師に役立つだけではない。生徒にとっても、今どのようなコンピテンスがどの段階で扱われているかの情報を提供するものである。

次に、ルーブリックとコンピテンスの一覧についてであるが、生徒は何ができ、何ができないのかが分かると、よりよく目標に向かって学習するものである。コンピテンス志向の歴史学習でも、彼らの学びの伸びが定期的に評価され、それを授業に反映させるところが重要になる。だから、その判断もコンピテンス志向の歴史学習の一角を占めることになる⁸⁾。

コンピテンス志向の教科書が、その判断を容易にしてくれることが望ましい。ルーブリックは、学習者一人一人がもっと能力を伸ばせるよう、現在の位置確認を行い、追加的な学習が必要かどうかを判断するものである。これは生徒にとって、学習過程や学習成果の記録として役立つ。

コンピテンスの一覧は、ルーブリックと同じ目的で役立つ。この一覧は個々の生徒の学習状況を記載することができる。図4は、成果の高いコンピテンスの一覧を示している。この図は、生徒が高い成果をもたらした学習に対し、判定された習得状況が反映されている。

7. コンピテンス志向の歴史授業で何が得られるのか

一般的なコンピテンス志向の授業や個別の歴史を伝達することへの期待は未だ少なくない。

一般的なコンピテンス志向の授業は、第一に、生徒が目標に向かって学習し、自らの学習に自らが責任を負う機会を与えるところが特徴的である。教師はコンピテンス志向の課題を設定し、学習過程の途中や最後に、試験や明確な規準を持つ成果物の形式で生徒の成果を判断する。それによって、学習者は彼らに何が期待されているのかを的確に理解するのである。第二に、生徒に学習したことを応用する機会を与えることである。第三に、生活や暮らしに目を向けたテーマで活動する機会を生徒に与えることである⁹⁾。

コンピテンス志向の歴史への期待も大きいものである。歴史学者、教育学者、政治的世論も、歴史授業がもたらす肯定的な影響を期待している。歴史が持つ価値について議論が長い間行われてきた。ヘロドトス(訳者注:古代ギリシャの歴史家で紀元前450年ごろの人物)は、「歴史的な

活動により、現在の暗闇に明かりをもたらしたい¹⁰⁾と考えた。また、前世紀に活躍した教育学者のテオドール・ヴィルヘルムは、歴史授業が士気や服従の強制、善行や忍耐や崇拜ではなく、確かな知識やそれをどのように発展させるのかについての知的な好奇心を目標にした時のみ、学校はその使命を正しく認識すると表現した¹¹⁾。

歴史は社会の行き先を方向づける重要な機能を持つと考えられてきたのである。「寛容で多元的な社会をめざす者は、歴史の学習を避けることはできない。」¹²⁾

これが最近の歴史教授学者を代表する見解である。

一般的な歴史やスイスの個別の歴史の価値を巡る議論は、スイスの政治にとっても関心事である。2004年12月に、連邦議会に対し、40名の国会議員が署名した質問が出された。彼らは、若者が前世代の行為について、もっとよく理解し、愛国的な感情を呼び覚ますことをめざしていた。歴史の伝達で「スイスの肯定的なイメージ」を形成することを支援し、スイスの国家としての統一と強化と名誉を維持し強めるために、連邦議会が手段を講じるべきだと要求したのである¹³⁾。

連邦議会は、翌年2月に回答し、各学校段階でスイス史の伝達を強化することを確認した。それとともに、私たちの国家の成立や発展についての必要な知識を伝達するだけでなく、今後の国家市民としての権利と義務を行使するための中心となる基礎的要素も設定されたのである¹⁴⁾。さらに、連邦議会は、教師は生徒に「歴史の批判的扱いや異なる描き方をする歴史の扱いができるための能力を与えるべき」ことを、併せてしっかりと確認したのである。

歴史学習にはコンピテンスを必要とする。コンピテンスは、生徒が歴史的展望において重要な問いを分析することを可能にするものである。重要なことは第一に、どのような経緯をへて、今のようになったのだろうか。私たちはどのようにして今の私たちのようになったのだろうか判断できるようになることである。第二として、私はどのように以前あった出来事を見つけ出し、知ることができるのだろうか。過去について、どのような証言が残っているのだろうか。それにはどのような意義があり、残し続ける価値がどこにあるのだろうか。過去のどのような出来事に矛盾した描写が見出せるだろうか。何が真実なのだろうか。第三として、何が、どのように、なぜ変化したのだろうか。同様に、何が、なぜ変わらないままなのだろうか。歴史はどのようにして語られるのだろうか。私はどのようにして歴史についての自分の判断に到達したのだろうか。私たちは歴史から学ぶことができるのだろうか。第四として、歴史の経過に誰が、そして何が影響を与えて、歴史は作り出されているのだろうか。なぜ、どのように。時間の経過の中で誰が得をして、誰が損をしたのだろうか。それは、なぜ、どのように。

これらの問いは、例えば、冷戦の開始やゴットハルト・トンネルの建設といった具体的なテーマに即して、常に繰り返し、設定されなくてはならない。ダニエラという女の子は、新しいテーマの下で、これらの問いを繰り返し設定してもらい、常に同じ行為の側面を意識しながら説明することによって、歴史学習のコンピテンスを数年にわたって構築していくのである。歴史をコンピテンス志向で教えることは、学習者一人一人に向けられた長期に及ぶ一大プロジェクトといえるのである。

注

- 1) この論稿は、以下の論文に対応したものである。Gautschi, Peter; Fuchs, Karin; Utz, Hans (2017): Geschichte kompetenzorientiert unterrichten. Online unter: <https://www.klett.ch/Katalog/Sekundarstufe%2BI/Geschichte/Lehrwerke/Zeitreise/Downloads/> (aufgerufen am 14.08.2017).
- 2) Vgl. Fuchs, Karin; Utz, Hans; Gautschi, Peter; u.a. (2017): Zeitreise 2. Das Lehrwerk für historisches Lernen im Fachbereich „Räume, Zeiten, Gesellschaften“. Ausgabe für die Schweiz. Baar: Klett und Balmer. S. 4-5. ここでは、「時間旅行に行く」というタイトルで、記念碑「ゴットハルトの建造 1872-1882年」を活用して、歴史学習とは何かが生徒に説明される。レリーフ自体は Kopiervorlage online にもある。
- 3) Jeismann, Karl-Ernst (2000): Geschichte und Bildung: Beiträge zur Geschichtsdidaktik und zur historischen Bildungsforschung. Paderborn; München; Wien; Zürich: Schöningh. S. 63. ユイスマンは、「事実判断」や「価値判断」の概念も使用し、説明する。
- 4) Rüsen, Jörn (2008): Historisches Lernen. Grundlagen und Paradigmen. 2., überarbeitete und erweiterte Auflage. Schwalbach/Ts.: Wochenschau Verlag. S. 62.
- 5) Barricelli, Michele; Gautschi, Peter; Körber, Andreas (2012): Historische Kompetenzen und Kompetenzmodelle. In: Barricelli, Michele; Lücke, Martin (Hrsg.): Handbuch Praxis des Geschichtsunterrichts. Band 1. Schwalbach/Ts.: Wochenschau Verlag. S. 207-235.
- 6) 「知性をアクティブにすること (kognitive Aktivierung)」は、確かにコンピテンス志向との関連で多く使用される新しい概念であるが、状況それ自体は新しくはない。「知性をアクティブにすること」は、学習者が自身の思考においてそうなることをめざす。生徒はたんに受動的に傾聴するべきではなく、自ら探求し、その記憶を動員し、習得した学習方略を活用し、学習過程そのものをコントロールし、熟考しなくてはならない。教師として生徒の知性をアクティブにしたければ、挑戦的で、問題志向で、コンピテンス志向の課題を提示すべきである。
- 7) ここで使用される複数の知識の形式の基本的な区別は、もともとはギルバート・ライルに由来する。彼は、「知る」を「方法を知ること」と「内容を知ること」に区別した(Ryle, Gilbert: The Concept of Mind. Chigaco: The University of Chigaco Press, 1948)。これに関連して、認知心理学はこの区別をさらに発展させ (Anderson, John R.: The architecture of cognition. Cambridge: Harvard University Press, 1983.)、今日では宣言的知識、手続き的知識、メタ認知的知識について論じる。宣言的知識は、「意味の重なり合い (意味論的ネットワーク) の形式で表される思考内容」を包括する (Escher, Daniel/Messner, Helmut: Lernen in der Schule. Ein Studienbuch. Bern: hep verlag ag, 2009, S. 153)。手続き的知識は、予定される行為 (操作) の形式で表される技能を含む (Escher/Messner 2009, S. 153)。最後に、メタ認知的知識は、自身の認知についての知識である。これは、自身の認知を評価し、自己熟考に反映させるのに役立つ (Weinert, Franz E.: Metakognition und Motivation als Determinanten der Lerneffektivität: Einführung und Überblick. In: Weinert, Franz E./Kluwe, Rainer H. (Hrsg.): Metakognition, Motivation und Lernen. S. 9-21. Stuttgart: Kohlhammer, 1984)。
- 8) 以下の文献も参照。Erziehungsdepartement des Kantons Basel-Stadt, Volksschulen: Kompetenzorientiert fördern und beurteilen. 2015. Basel: Volksschulleitung, 2015. Online unter <https://www.edubs.ch/publikationen/handreichungen-und-umsetzungs-hilfen> (aufgerufen am 15. August 2016).
- 9) 同上。
- 10) Herodot: Historien. Herausgegeben von H.W. Haussig. Stuttgart: Kröner, 1971 を参照。

- 11) Wilhelm, Theodor: Theorie der Schule: Hauptschule und Gymnasium im Zeitalter der Wissenschaften (2. Auflage). Stuttgart: Metzler, 1969. S. 408.
- 12) Dressler, Jens: Vom Sinn des Lernens an der Geschichte. Historische Bildung in schultheoretischer Sicht. Stuttgart: Kohlhammer, 2012. S. 173.
- 13) 連邦議会への質問 04.3650 は、2004 年 12 月 7 日に「スイスの肯定的描写」というタイトルで、アンドレ・レイモンドに託されたものである (<https://www.eda.admin.ch/content/dam/parl-vor/2nd-world-war/2000-2010/positive-darstellung-der-schweizergeschichte.pdf> (aufgerufen am 7.5.2016)).
- 14) 同上。

資料 1 「冷戦期の世界」の授業の一場面のプロトコール

時間	発言者	
00:12	Film	„数か月後、アメリカのカメラマンたちが占領された日本で映画撮影をする。彼らはとりわけ広島でその被害の規模をカラーで記録しなくてはならない。広島はもはや存在しない。ほぼ 10 万人の人々がここで命を落としている。“
01:27	Lw	このフィルム映像があるね。ここでは何が示されていたかな？これは風刺画と矛盾していないかな？矛盾するとしたら、いつで、どのようになるのかな？君たちはこれを評価することができるかな？それを 2 人でやってみましょう。
		(課題設定から課題の取り組みへ、同級生との視点の共有)
01:43	SwB	ここでも第二次世界大戦の最後の局面が示されているよね。
01:47	SwC	うーん。
01:48	SwB	少なくとも私はこれを前にも言っている。でも私は実際にはよく分からない。君はどう思う？
01:54	SwC	私たちは前の時間にずっとルーズベルトについて話したよね？
01:57	SwB	そうだね、でもこれはもうその話ではないよね。
01:59	SwC	本当にそうでないのかな？そうだとしたら、トルーマンの話かもしれない。(…)そうすると、(…)風刺画に描かれた 2 人の政治家は互いに原爆を投下したことになるのかな？
02:12	SwB	よく分からないよ。
02:12	SwC	それとも、これはアメリカだけがしたことなのかな？
02:15	SwB	スターリンが力を貸したのかどうかは知らないよ。(…)
02:20	SwC	…原爆を投下するのを？
02:20	SwB	… 私は知らないし、全く分からないよ。でも、両者がいずれ原爆を投下することだけは言えるよね。
02:30	SwC	そうだね。でも、原爆投下が 2 人の政治家が離れた理由だったのかな？私が考えるに…
02:34	SwB	2 人の政治家が離れた理由？スターリンはどうしたかったのか？アメリカ合衆国は何をしたかったのか？ソビエト連邦は何をしたかったのか？
02:42	SwC	うん、それははっきりしてるよね。でも、アメリカ合衆国とソビエト連邦がずっと戦っていたことは分かっているよね？なぜ両国は突然離れたのかな？このことは風刺画にどう描かれている？
02:47	SwB	うん、それはとても簡単だね。両国が戦う共通の敵がもういなくなったから。
02:48	SwC	そうだね、それについても同感だね。
02:50	SwB	これは時に 2 つの政治的に異なる政党にも言えることだよ。2 つの政党は何かに対して共闘するけど、実際には全く違うことがしたいから、同調した後はまた違う道を進むよね。それについては確かなんだけど…
02:57	SwC	そうだよ、それははっきりしてる。
02:58	SwB	両国は例えば、ヒトラーを打倒するという目的のために共同で戦った。
03:02	SwC	うん。
03:04	SwB	もしくは、ヨーロッパのファシズム政権をなくすため…
03:05	SwC	でも、両国は本当に日本に対して共同でしたのかな？ヒトラーに対しては既に確かなんだけど！両国は原爆を本当に一緒に投下したのかな？
03:09	SwB	私は今気持ちがぐらついているよ。(笑)

03:12	SwC	つまり、両国はヒトラーに対しては(…)
		(ペア活動での課題の取り組みからクラスでの課題評価へ)
03:17	Lw	よし、私たちがしたいのは…
03:18	SwB	はい、それはもうやっています…
03:19	Lw	…課題をもう2人で評価しているかな？風刺画とこの映画を関連づけることはそんなに簡単ではなかったよね。どのように風刺画を解釈したかを誰か説明できる？オスカー？
03:37	SmA	多分、連合軍、または、アメリカ人やロシア人は全ての敵を一掃するために共同で戦わなくてはならなかった。
03:43	Lw	ふーん。
03:44	SmA	そして、両国は異なるイデオロギーを持っているので、のちに離れることになる。
03:52	Lw	ふむ。
03:53	SmA	そして、ここから(…)鉄のカーテンからなる冷戦となった。
03:57	Lw	うん、確かに、うん。
03:59	Lw	両者はだれ？みんなはこれらの人物を知ってる？その名前はフィルム映像の中で聞いたかな？どう？ダニエラ？
04:06	SwB	トルーマンとスターリンです。
04:08	Lw	そう、確かに、うん。
04:10		そして、ああ(…)、あなたたちは何を考える？(…)風刺画の上部では、彼らは相乗り自転車に乗っている。相乗り自転車ではどちらがよりよい場所を取ってる？(2秒)どう？リヴィア？
04:24	SwC	(笑)はい、スターリンです。なぜなら、彼は実際にはあまりこぐ必要がないからです。彼はあまり踏み込む必要がないけど、進む方向は一緒に決定することはできたから。
04:29	Lw	確かにそうだね。あなたは後ろがより良い場所であると分かっている？(少し笑)
04:34	SwC	(笑い)はい、何もしないと、何も見えません。そして、前方の人が自転車をこぐと、後方の人は脚を気持ちよく休めることができます。
04:40	SwB	(にこにこして)風よけにもなるしね。
04:41	Lw	うーん、確かにね。2人がすでに言っているように、前方の人は誘導することもできる。
04:47		では、あなたたちは映画の映像をこの風刺画とどのように結びつけることができるかな？これはどのように関連するのかな？ダニエラ。
04:59	SwB	はい、ええと、映画の映像は、日本が降伏した後での第二次世界大戦の全結末を描写しています。そして、それは相乗り自転車を降りた瞬間で、今では2つの一輪車になっています。映画の結末は風刺画では真ん中の白い線です、多分(…)、(笑)それで…
05:11	Lw	ふーむ、確かに。
		(同級生との共有)
05:14	Lw	そして、風刺画の下部の2人の一輪車の乗り手の釣り合いは事実と合っているかな？第二次世界大戦直後という時期に合っていると言えるかな？オスカー？
05:29	SmA	えーと、共産主義陣営がより大きかったから、どっちかといえば合っていないです。ソビエト連邦、中国、キューバ、さらに後で別の国も属しています。
05:40	Lw	うん、いいかな、あなたたちは知らないかもしれないね。中国は1949年10月1日に、キューバは1959年1月1日に建国されたんだ。(笑)これをあなたたちは知らなかったけど、ここから考えると…
05:53	SmA	第二次世界大戦の後で、全世界で共産主義革命が起きたということですか？
05:57	Lw	そう。
05:58	SmA	この理念を貫徹したかった。
06:00	Lw	その通り。人口の総数からすると、もっともな意見だね。ここではどんな考え方が考慮されていないかな？アメリカ合衆国との関連で何かを述べなくてはいけないのではないかな？つまり、アメリカ合衆国はより力を持っている。…どのような理由から？この時期でもまだそうかな？どう？ヴェラ？
06:05		
06:30	SwD	アメリカ合衆国は当時、原爆を所有する世界で唯一の国家だったからです。
06:34	Lw	そう、まさにその通り。よし、あなたたちはここでこの風刺画をよく解釈したと思うよ。
06:36		私たちはもう一度授業の結論をじっくり見ていきましょう。さらに付け加えて言うことがある？
06:47		今、黒板をざっと見ていこう。あなたたちは書き写したかもしれないね。まさに第二次世界大戦の結果を問題にしている。ここで少し示してみよう。

資料2 講演会のスライド資料

スイスの日常的な授業の様子

PH LUZERN
PÄDAGOGISCHE
HOCHSCHULE



コンピテンス志向の歴史授業

ペーター・ガウチ 2017

1

スイスの歴史授業は大きく変わろうとしている

PH LUZERN
PÄDAGOGISCHE
HOCHSCHULE



1848:
アイデンティティと
知識



2016:
コンピテンス

2

コンピテンス志向の歴史授業

PH LUZERN
PÄDAGOGISCHE
HOCHSCHULE



1. 私たちは日常生活でどのように歴史と出会うのだろうか？
2. 歴史学習とは何か？
3. スイスの学習指導要領において歴史学習に必要なコンピテンスは何か？
4. コンピテンス志向の授業はどのようなものなのか？
5. スイスでのコンピテンス志向の歴史教科書はどのようなものなのか？
6. 私たちは歴史授業でのコンピテンス志向で何を手に入れるのか？

3

スイスは4つの公用語を持つ

PH LUZERN
PÄDAGOGISCHE
HOCHSCHULE

Verbreitung der vier Landessprachen in der Schweiz (2000)



4

高い山脈,長いトンネル,
多くの歴史,
複数の記念碑

PH LUZERN
PÄDAGOGISCHE
HOCHSCHULE



アルプス山脈 -
4000m以上の山
並み

ゴットハルトトンネル -
57 Km



5

ダニエラはアイロロで記念碑を
見つける

PH LUZERN
PÄDAGOGISCHE
HOCHSCHULE



6

ゴットハルトでのトンネル建設

PH LUZERN
PÄDAGOGISCHE
HOCHSCHULE



7

PH LUZERN PÄDAGOGISCHE HOCHSCHULE

日常における歴史学習




- 記念碑を見つけ、問題を設定する
- 記念碑を解明し、それが意味することを知る
- 記念碑がどのような歴史を記憶しているかを理解する
- 記念碑が今日ととり何を意味するのかを把握する

8

PH LUZERN PÄDAGOGISCHE HOCHSCHULE

コンピテンス志向の歴史授業

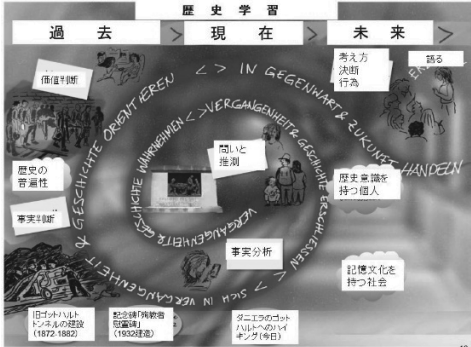


1. 私たちは日常生活でどのように歴史と出会うのだろうか？
2. 歴史学習とは何か？
3. スイスの学習指導要領において歴史学習に必要なコンピテンスは何か？
4. コンピテンス志向の授業はどのようなものなのか？
5. スイスでのコンピテンス志向の歴史教科書はどのようなものなのか？
6. 私たちは歴史授業でのコンピテンス志向で何を手に入れるのか？

9

PH LUZERN PÄDAGOGISCHE HOCHSCHULE


歴史学習



10

PH LUZERN PÄDAGOGISCHE HOCHSCHULE

コンピテンス志向の歴史授業



1. 私たちは日常生活でどのように歴史と出会うのだろうか？
2. 歴史学習とは何か？
3. スイスの学習指導要領において歴史学習に必要なコンピテンスは何か？
4. コンピテンス志向の授業はどのようなものなのか？
5. スイスでのコンピテンス志向の歴史教科書はどのようなものなのか？
6. 私たちは歴史授業でのコンピテンス志向で何を手に入れるのか？

11

PH LUZERN PÄDAGOGISCHE HOCHSCHULE

4つの行為の側面を持つコンピテンス

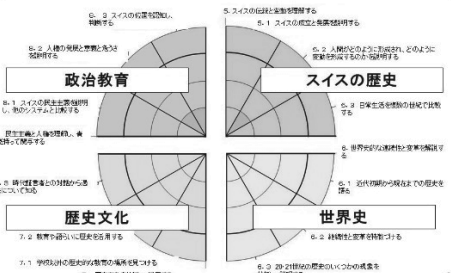


1. 過去と歴史を認知る
2. 過去と歴史を解明する
3. 歴史と現在に方向づける
4. 現在や未来において行為する

12

PH LUZERN PÄDAGOGISCHE HOCHSCHULE

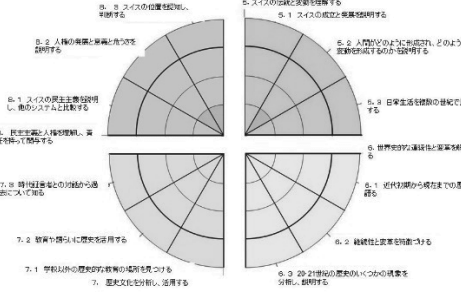
4つのコンピテンス領域



13

PH LUZERN PÄDAGOGISCHE HOCHSCHULE

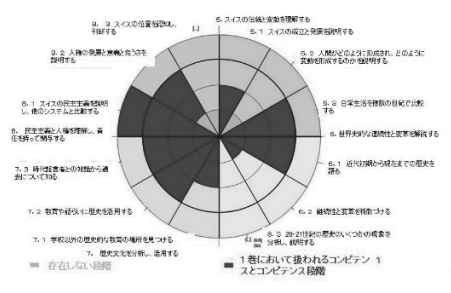
12のコンピテンス



14

PH LUZERN PÄDAGOGISCHE HOCHSCHULE


コンピテンスの養成は長期に亘るプロジェクトである!



15

PH LUZERN
PÄDAGOGISCHE
HOCHSCHULE

コンピテンス志向の歴史授業




1. 私たちは日常生活でどのように歴史と出会うのだろうか？
2. 歴史学習とは何か？
3. スイスの学習指導要領において歴史学習に必要なコンピテンスは何か？
4. **コンピテンス志向の授業はどのようなものなのか？**
5. スイスでのコンピテンス志向の歴史教科書はどのようなものなのか？
6. 私たちは歴史授業でのコンピテンス志向で何を手に入れるのか？

16

PH LUZERN
PÄDAGOGISCHE
HOCHSCHULE

コンピテンス志向の歴史授業の特徴





1. 生徒の認知面での活発化
2. 基盤としての学習課題
3. 重要な現代的な問題設定
4. 診断に基づいた授業
5. 個別的で各自で異なる授業
6. 豊富な資料
7. 生徒が歴史的に語る (以前 - 以後; 原因 - 影響)

17

PH LUZERN
PÄDAGOGISCHE
HOCHSCHULE

授業事例: 冷戦の開始とブロック建設

1. 諷刺画とドキュメンタリー映画を解釈する
2. 解釈のための資料を巡るクラスでの対話
3. 資料のテキストをペア活動で解明し、解釈する
4. 方向づけるための教師の講義

18

PH LUZERN
PÄDAGOGISCHE
HOCHSCHULE


生徒を観察する



19

PH LUZERN
PÄDAGOGISCHE
HOCHSCHULE

コンピテンス志向の歴史授業

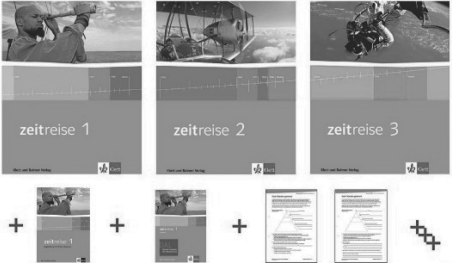


1. 私たちは日常生活でどのように歴史と出会うのだろうか？
2. 歴史学習とは何か？
3. スイスの学習指導要領において歴史学習に必要なコンピテンスは何か？
4. **コンピテンス志向の授業はどのようなものなのか？**
5. **スイスでのコンピテンス志向の歴史教科書はどのようなものなのか？**
6. 私たちは歴史授業でのコンピテンス志向で何を手に入れるのか？

20

PH LUZERN
PÄDAGOGISCHE
HOCHSCHULE

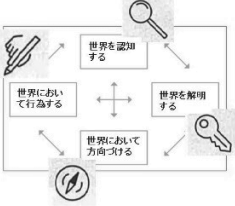
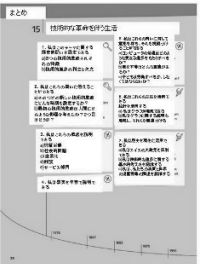
„Zeitreise (時間旅行)“ – コンピテンス志向の歴史教科書



21

PH LUZERN
PÄDAGOGISCHE
HOCHSCHULE

行為の側面を全ページにおいて 絵文字で示す

22

PH LUZERN
PÄDAGOGISCHE
HOCHSCHULE

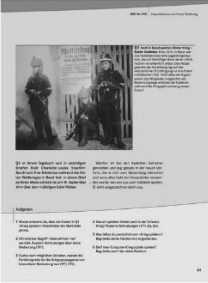
例えば、歴史地図を 方法の一覧で読み解く



23

**PH LUZERN
PÄDAGOGISCHE
HOCHSCHULE**

多様な課題



史資料を扱う「代表的人物」

より多くの史資料を扱う一連の課題

ポートフォリオのための課題: 生徒は自らより多くの史資料を探す

史資料を基盤に置かない問いや刺激



24

**PH LUZERN
PÄDAGOGISCHE
HOCHSCHULE**

コンピテンスの見通し

1. 歴史に関する宣言的知識
2. 歴史を扱うための手続き的知識
3. 歴史を理解するためのメタ認知的知識
4. 歴史に関連した歴史についての興味・関心
5. 歴史に関する前向きな態度

⇒ これら全ての側面はコンピテン스에属する!

25

**PH LUZERN
PÄDAGOGISCHE
HOCHSCHULE**

評価の枠組みとコンピテンスの一覧


表2.6 スイスの伝統と変動を理解する

コンピテンツ	コンピテンツ説明	コンピテンツ説明	コンピテンツ説明	コンピテンツ説明
知識	歴史的事実の正確な知識と、歴史の出来事や人物の正確な知識	歴史的事実の正確な知識と、歴史の出来事や人物の正確な知識	歴史的事実の正確な知識と、歴史の出来事や人物の正確な知識	歴史的事実の正確な知識と、歴史の出来事や人物の正確な知識
理解	歴史的事実の正確な知識と、歴史の出来事や人物の正確な知識	歴史的事実の正確な知識と、歴史の出来事や人物の正確な知識	歴史的事実の正確な知識と、歴史の出来事や人物の正確な知識	歴史的事実の正確な知識と、歴史の出来事や人物の正確な知識
応用	歴史的事実の正確な知識と、歴史の出来事や人物の正確な知識	歴史的事実の正確な知識と、歴史の出来事や人物の正確な知識	歴史的事実の正確な知識と、歴史の出来事や人物の正確な知識	歴史的事実の正確な知識と、歴史の出来事や人物の正確な知識
評価	歴史的事実の正確な知識と、歴史の出来事や人物の正確な知識	歴史的事実の正確な知識と、歴史の出来事や人物の正確な知識	歴史的事実の正確な知識と、歴史の出来事や人物の正確な知識	歴史的事実の正確な知識と、歴史の出来事や人物の正確な知識

26

**PH LUZERN
PÄDAGOGISCHE
HOCHSCHULE**

コンピテンツ志向の歴史授業




1. 私たちは日常生活でどのように歴史と出会うのだろうか?
2. 歴史学習とは何か?
3. スイスの学習指導要領において歴史学習に必要なコンピテンツは何か?
4. コンピテンツ志向の授業はどのようなものなのか?
5. スイスでのコンピテンツ志向の歴史教科書はどのようなものなのか?
6. 私たちは歴史授業でのコンピテンツ志向を何を手に入れるのか?

27

**PH LUZERN
PÄDAGOGISCHE
HOCHSCHULE**

歴史の伝達への大きな期待



例えば、ヘロドトス:「歴史的な活動により、現在の暗闇に明かりをもたらしたい」

例えば、スイス連邦議会:「生徒に歴史の批判的扱いや異なる描き方をする歴史の扱いができるための能力を与える」

28

**PH LUZERN
PÄDAGOGISCHE
HOCHSCHULE**

歴史は重要な問いに対する答えを与える!

- どのような経緯をへて、今ようになったのだろうか?
- 私たちはどのようにして今の私たちのようになったのだろうか?
- 私はどのように以前あった出来事を見つけ出し、知ることができるのだろうか?
- 過去のどのような出来事に矛盾した描写が見出せるだろうか? 何が真実なのだろうか?
- 何が、どのように、なぜ変化したのだろうか?
- 何が、なぜ変わらないままなのだろうか?
- 私たちは歴史から学ぶことができるのだろうか?



29

Bildnachweis Powerpoint-Präsentation Peter Gautschi Geschichte kompetenzorientiert unterrichten

Folie 1:

- Geschichtsunterricht mit Tablets in Zofingen / Schweiz am 29. April 2015. Fotografie von Peter Gautschi.

Folie 2:

- Die Dorfschule von 1848, Gemälde von Albert Anker, 1896, 104x175,5 cm, Kunstmuseum Basel.

https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Anker_Die_Dorfschule_von_1848_1896.jpg (31.10.2017).

- Geschichtsunterricht mit Tablets in Zofingen / Schweiz am 29. April 2015. Fotografie von Peter Gautschi.
Folie 3:

- Geschichtsunterricht mit Tablets in Zofingen / Schweiz am 29. April 2015. Fotografie von Peter Gautschi.
Folie 4:

- Verbreitung der vier Landessprachen in der Schweiz. https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Sprachen_CH_2000.png (31.10.2017).

Folie 5:

- Schweizer Alpen: <https://pixabay.com/de/berge-alpen-schweiz-schnee-fels-287617/> (31.10.2017).

- Fahrt durch den Gotthardtunnel. <https://www.srf.ch/sendungen/regionaljournal-basel-baselland/neuer-gotthard-tunnel-bringt-der-region-basel-nur-wenig> (31.10.2017).

Folie 6:

- Traforo del Gottardo. Denkmal zum Tunnelbau am Gotthard von Vincenzo Vela in Airolo. <https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Gotthardbahn04.jpg> (31.10.2017).

Folie 7:

- Relief des Denkmals zum Tunnelbau am Gotthard von Vincenzo Vela in Airolo. Foto von Roger Wehrli, Baden. In: Fuchs, Karin; Gautschi, Peter; Utz, Hans; u.a. (2017): *Zeitreise 2. Begleitband. Ausgabe für die Schweiz*. Baar: Klett und Balmer. S. 14.

Folie 8:

- Gotthard-Bergstrecke mit Wassen im Hintergrund. <https://www.srf.ch/news/schweiz/gotthard/ohne-zugbegleiter-ueber-die-alte-gotthard-strecke> (31.10.2017).

Folie 9, wie Folie 3.

Folie 10:

- Historisches Lernen. Illustration von Stephan Brühlhart. In: Fuchs, Karin; Gautschi, Peter; Utz, Hans; u.a. (2017): *Zeitreise 2. Begleitband. Ausgabe für die Schweiz*. Baar: Klett und Balmer. S. 16.

Folie 11, wie Folie 3.

Folie 12:

Auf Zeitreise gehen. Historisches Lernen am Denkmal zum Tunnelbau am Gotthard von Vincenzo Vela in Airolo. In: Fuchs, Karin; Utz, Hans; Gautschi, Peter; u.a. (2017): *Zeitreise 2. Das Lehrwerk für historisches Lernen im Fachbereich „Räume, Zeiten, Gesellschaften“*. Ausgabe für die Schweiz. Baar: Klett und Balmer. S. 4-5.

Folien 13-15:

Kompetenzspiegel für historisches Lernen. Overlay-Folien zur Vorlage, in: Fuchs, Karin; Gautschi, Peter; Utz, Hans; u.a. (2017): *Zeitreise 2. Begleitband. Ausgabe für die Schweiz*. Baar: Klett und Balmer. S. 33.

Folie 16, wie Folie 3.

Folie 17:

- Geschichtsunterricht mit Tablets in Zofingen / Schweiz am 29. April 2015. Fotografie von Peter Gautschi.

- Geschichtsunterricht zum Kalten Krieg in Luzern / Schweiz am 13. Oktober 2014. Fotografie von Peter Gautschi.

Folie 18:

- Geschichtsunterricht zum Kalten Krieg in Luzern / Schweiz am 13. Oktober 2014. Fotografie von Peter Gautschi.

- Tandem oder Einrad. Karikatur zum Kalten Krieg: In: Fuchs, Karin; Utz, Hans; Gautschi, Peter; u.a. (2018): *Zeitreise 3. Das Lehrwerk für historisches Lernen im Fachbereich „Räume, Zeiten, Gesellschaften“*. Ausgabe für die Schweiz. Baar: Klett und Balmer. S. 14.

Folie 19:

- Geschichtsunterricht zum Kalten Krieg in Luzern / Schweiz am 13. Oktober 2014. Fotografie von Peter Gautschi.

Folie 20, wie Folie 3.

Folie 21:

- Cover der Schulgeschichtsbücher *Zeitreise*, Ausgabe für die Schweiz. Baar: Klett und Balmer, 2016-2018.

Folie 22:

- Handlungsaspekte mit Piktogrammen. In: Fuchs, Karin; Gautschi, Peter; Utz, Hans; u.a. (2017): *Zeitreise 2. Begleitband. Ausgabe für die Schweiz*. Baar: Klett und Balmer. S. 17.

- Leben mit technischen Revolutionen. In: Fuchs, Karin; Utz, Hans; Gautschi, Peter; u.a. (2017): *Zeitreise 2. Das Lehrwerk für historisches Lernen im Fachbereich „Räume, Zeiten, Gesellschaften“*. Ausgabe für die Schweiz. Baar: Klett und Balmer. S. 38.

Folie 23:

- Geschichtskarten auswerten. In: Fuchs, Karin; Utz, Hans; Gautschi, Peter; u.a. (2017): Zeitreise 2. Das Lehrwerk für historisches Lernen im Fachbereich „Räume, Zeiten, Gesellschaften“. Ausgabe für die Schweiz. Baar: Klett und Balmer. S. 52-53.

Folie 24:

- Kinder spielen Krieg. In: Fuchs, Karin; Utz, Hans; Gautschi, Peter; u.a. (2017): Zeitreise 2. Das Lehrwerk für historisches Lernen im Fachbereich „Räume, Zeiten, Gesellschaften“. Ausgabe für die Schweiz. Baar: Klett und Balmer. S. 61.

Folie 25:

- Auf Zeitreise gehen: In: Fuchs, Karin; Utz, Hans; Gautschi, Peter; u.a. (2016): Zeitreise 1. Das Lehrwerk für historisches Lernen im Fachbereich „Räume, Zeiten, Gesellschaften“. Ausgabe für die Schweiz. Baar: Klett und Balmer. S. 4-5.
- Geschichte forschend am Thutbrunnen erlernen. In: Gautschi, Peter (2015): Geschichte lehren. Lernwege und Lernsituationen für Jugendliche. 6. aktualisierte Auflage (Erstauflage 1999). Buchs: Lehrmittelverlag des Kantons Aargau. S. 109.

Folie 26:

- Beurteilungsraster. Fuchs, Karin; Gautschi, Peter; Utz, Hans; u.a. (2017): Zeitreise 2. Begleitband. Ausgabe für die Schweiz. Baar: Klett und Balmer. S. 34.

Folie 27, wie Folie 3.

Folie 28:

- Geschichtsunterricht zum Kalten Krieg in Luzern / Schweiz am 13. Oktober 2014. Fotografie von Peter Gautschi.

Folie 29, wie Folie 19.